

## 平成29年度「秋の文化財探訪の旅」 ～鞍馬・洛北・東山の古社寺名刹を訪ねて ～ 研修旅行報告

本年度の県外研修旅行は、11月10日（金）と11日（土）の両日、秋の京都市の文化財を散策する目的で企画しました。参加者は、男性12名、女性11名の23名でした。研修当日は、絶好の晴天に恵まれ、例年と違いさい先の良い研修旅行となり、高鷲町振興事務所前の出発時間の7時頃には、気温が3度と多少肌寒い感じでした。バスは東海北陸自動車道から名神高速道路を通り、京都市を目指してひたすら走り、バスの中では研修委員長である鷲見副会長からの旅程についての話や、馬淵会長の挨拶及び中田氏のブログの話、参加者同士の会話が続き、時間が経つのも忘れ、大津のサービスエリアで弁当を積み、京都市北区にある鞍馬寺に着きました。秋の鞍馬寺は紅葉が秋の青空に映え、幻想的な美しさ、いよいよ研修の始まり。

### 鞍馬寺

11時30分に鞍馬寺に着き、最初に全一員で記念写真、それからケーブルカーで約3分多宝塔近くへ、そして階段を上り、本殿へ到着。会員には高齢者が多く、かなり足に負担がかかったようで、「疲れた」「膝が壊れそうだ」との悲鳴が上がりました。本殿参拝後は霊宝殿（鞍馬山博物館）を見学し、帰りはケーブルカーで下りる人や、元気な人は徒歩で下山しました。

『鞍馬蓋寺縁起』によれば、奈良時代末期の宝亀元年（770）奈良唐招提寺の鑑真和上の高弟・鑑禎上人は、正月4日夜夢告と白馬の導きで鞍馬山に登山、鬼女に襲われたところ毘沙門天に助けられ、毘沙門天を祀る草庵を結びました。桓武天皇が長岡京から平安京に遷都してから2年後の延暦15年（796）造東寺長官、藤原伊勢人が観世音を奉安する一字の建立を念願し、夢告と白馬の授けを得て登った鞍馬山には、鑑禎上人の草案があつて毘沙門天が安置されていました。そこで、「毘沙門天も観世音も根本は一体のものである」という夢告が再びあつたので、伽藍を整え、毘沙門天を奉安し、後に千手観音を造像して併せて祀りました。また、源義経（幼名牛若丸）は、7歳頃に鞍馬寺に入山し、16歳頃、鞍馬寺を出て奥州平泉に下つたと言われています。牛若丸は、由岐神社上手にある東光坊で昼間は仏道修行、夜は僧正カ谷で天狗に兵法を授けられたという伝説があります。



仁王門前で記念写真撮影

### 詩仙堂

午後1時40分頃、鞍馬寺を出て、白川通りの詩仙堂前で下車し、そこから10分程坂道を上り、詩仙堂を拝観しました。詩仙堂は徳川家康の家臣であつた石川丈山が隠居のため造営した山荘です。名前の由来は、中国の詩家36人の肖像を掲げた詩仙の間にあります。寛永18年（1641）、丈山59歳の時に造営され、丈山は寛文12年（1672）、90歳で没するまでここで詩歌三昧の生活を送つたそうです。

庭園造りの名手でもある丈山により設計された庭は、四季折々に楽しむ事ができ、春のサツキと秋の紅葉が有名で観光客で賑わい、「ししおどし」として知られる添水(ソズ)と呼ばれる仕掛けにより、時折響く音は、静寂な庭のアクセントになっており、私達の疲れた身体に一服の清涼を与えてくれたようになりました。



紅葉が盛んな詩仙堂庭園

## 下鴨神社

16時前に、通称下鴨神社に到着。この神社は京都では最も古く、社伝では、神武天皇の御代に御蔭山に祭神が降臨したといわれ、正式には賀茂御祖神社(カモミヤジinja)といい、京都市左京区にあります。賀茂別雷神社(カモリケイカスチジinja)上賀茂神社)とともに賀茂氏の氏神を祀る神社で、両社で催す賀茂祭は別名葵祭として有名であり、平成25年の本協会の研修旅行で見学しました。ここでは、糺の森という社叢があり、広大な敷地のため、自由散策となり、神社参拝後、各自は茶屋で休んだり、糺の森を散策したりして鞍馬寺、詩仙堂の疲れを癒やしていました。



下鴨神社正門

## 京都国立博物館～国宝展～

京都市河原町竹屋町通りにある「お宿いしちよう」を8時30分に出発し、開館120年を迎える「京都国立博物館」を見学した。ここでは日本の国宝といわれている文化財の1/4が40年ぶりに公開展示され、多くの来館者が入場を待っており、入場するだけで約一時間かかったが、「金印」、「神護寺3像」、「曜変天目茶碗」、「火炎土器」、雪舟の「四季山水図」等々が見られ、とても得をして充実した気分博物館を後にした。最初の予定では御所の敷地内にある「京都迎賓館」を見学するつもりであったが、見学者抽選に漏れたために、会員の森さんの提案で京都博物館「国宝展」になったが、とても素晴らしかった。生きているうちはもう二度と見られないだろう。



京都国立博物館正門

生きていうちはもう二度と見られないだろう。

10時30分に博物館を出発し次の見学地建仁寺に向かう。

## 建仁寺

建仁寺は建仁2年(1202)将軍源頼家が寺域を寄進し、栄西禅師を開山として宋国百丈山を模して建立され臨済宗の京都五山第三位の寺で、正元元年(1259)宋の禅僧、建長寺開山蘭溪道隆が入山してからは禅の作法、規矩(禪院の規則)が厳格に行われ純粹に禅の道場になった。ここでは時間が少なく駆け足の参拝になってしまった。

## 知恩院

知恩院は、京都市東山区にある浄土宗総本山の寺院で、開基は法然です。知恩院は法然が後半生を過ごし、没したゆかりの地に建てられた寺院で、現在のような大規模な伽藍が建立されたのは、江戸時代以降であります。三門をくぐると急な石段があり、この三門は高さ24mの堂々たる門で、東大寺南大門より大きく、現存する日本の寺院の三門(山門)の中で最大の二階二重門であります。

知恩院の見学後、円山公園内の料理茶屋で「湯豆腐定食」を食べ、一路帰路につき、18時30分頃高鷲に無事着いた。(会員の感想等は「文化財たより28号」に掲載する)